

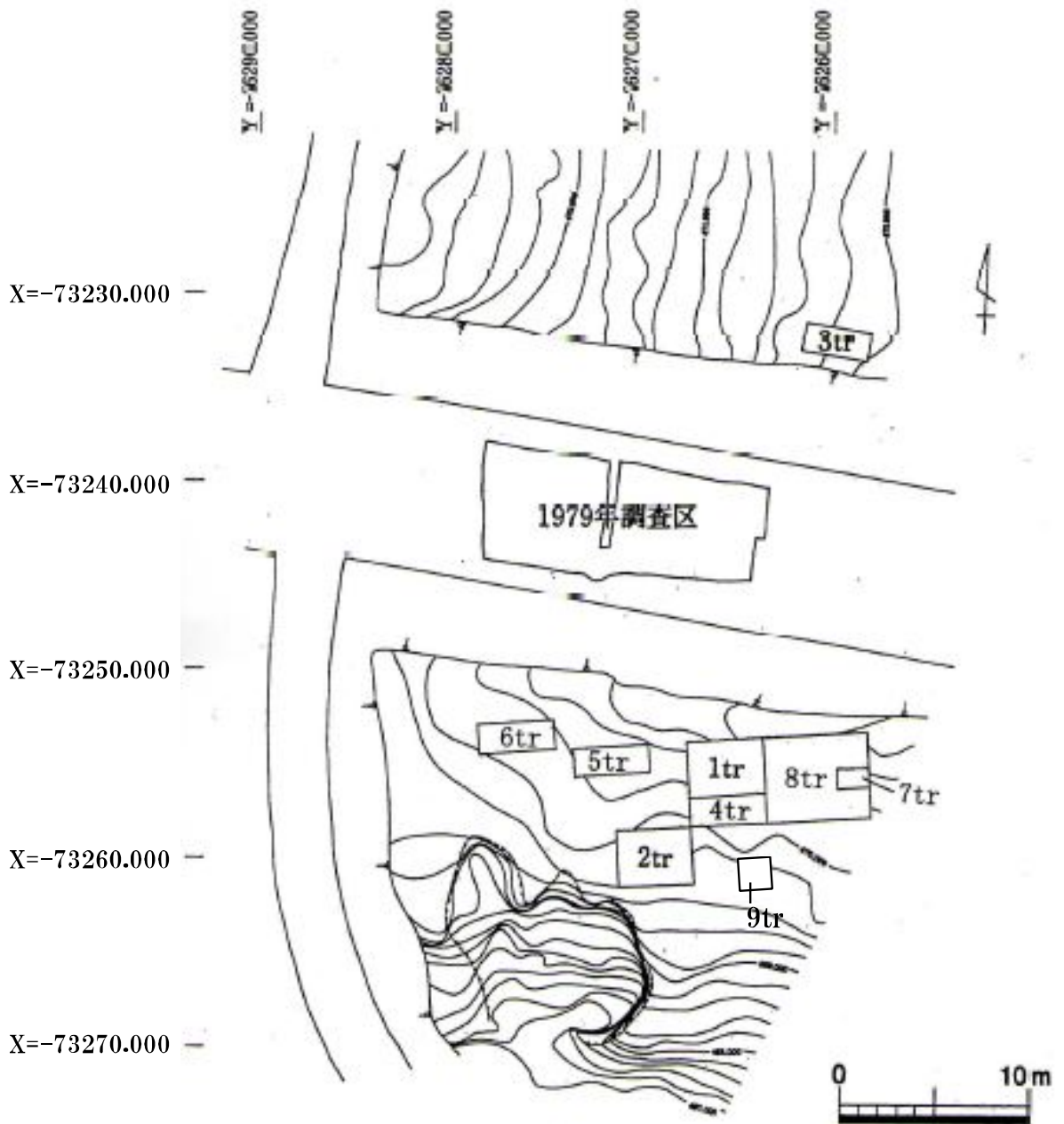
# 井後草里遺跡5次発掘調査ニュース

岡山大学考古学研究室 井後草里遺跡第5次発掘調査団

2012年10月30日発行

## はじめに

井後草里遺跡は、1979年に溝口町教育委員会、2007・2009・2010年に岡山大学考古学研究室によって調査され、縄文時代の土器や石器等の生活の痕跡が見つっています。今回、岡山大学考古学研究室は遺物と遺構の広がりを確認し、2010年の続きを調査することを目的として、2012年8月19日から30日にかけて発掘調査をおこないました。



トレンチ配置図

2009年度調査で一部検出した礫群の全体像を確認しました。石は自然にここに流れてきたものようですが、数千年前までは大きな石の上面が地表に出ている、縄文時代の人が砥石のように使った可能性があります。



礫群の全体像



砥石として使用された可能性がある部分

トレンチの南側中央では、土坑(昔の人が掘った穴)の上部から土器片と剥片(石器を作るときに出る石屑)、炭化物(炭になったドングリや木)が比較的まとまって出土しました。この土坑の近くに前回の調査で縄文時代後期中葉の土器片がまとまって出土した部分がありましたが、それと同じ個体の土器片が複数出土しているため、同時期に形成されたものと考えられます。また、この土坑の底には縄文人が捨てたか置いたとみられる大きな土器片が入っていました。前回の調査で住居址の可能性があった大型遺構は、柱の穴がみつからず、住居であるという証拠は確認できませんでした。このほかに土坑がいくつか重なりあった状態で見つかりました。



大型遺構



土坑の中の土器片



## 出土遺物

今回の調査では、土器片が約 240 点、石器が約 20 点、サヌカイトの剥片<sup>はくへん</sup>、炭化物が出土しました。

土器片の多くは縄文時代のものであり、文様やつくりかたの特徴から、早期(約 1 万年前)や後期(約 3 千 5 百年前)、晩期(約 3 千年前)のものと考えられます。石器としては、植物をすりつぶすために用いる磨石<sup>すりいし</sup>・敲石<sup>たたきいし</sup>が多く出土しています。



土器片の出土状況



サヌカイトの剥片の出土状況



作業風景





8トレンチ完掘写真



発掘作業の様子



9トレンチ完掘写真

### おわりに

今回の発掘調査では、重なりあった土坑や集石の全体像、炭化物や剥片はくへんがまとまって出土した場所が確認できました。また、本調査をもちまして井後草里遺跡の発掘調査は終了します。今後これらの成果と過去の調査成果から井後草里遺跡における縄文時代の人々の生活を明らかにできればと思います。

最後になりましたが、調査にご協力くださった地域の方々に厚くお礼を申し上げます。